

韓国・ブندان日本語補習授業校

ニュースレター2022 No.10

2022年度の初号です。待ちに待ったオフライン授業再開はお預けですが、補習校の成り立ちを改めて振り返り、皆で集まれる日を楽しみに待ちたいと思います。今号は、2014年にコミュニティ作りを始めた本校創立者の泰子先生が当時書かれた文章を掲載いたします。初心にかえるきっかけになれば嬉しいです。

「ことば」は遺伝しない

やすこ
大皿泰子（本校創立者、2014年執筆）

皆さんは、生まれて初めて聞いた言葉を覚えていますか？どなたもそれが、なんだったかわからなくても、母の赤ん坊をあやす言葉であった事は想像がつくでしょう。「よしよし、どうしたの？」とか「オシッコがでたのかな？」など母の言葉、つまり母語を聞いて毎日、毎日大きくなっていくのです。そして言葉を獲得していくのです。

日本は移民や他民族との国際結婚もそんなに多くなく、長い間この母語が母親の母国語（国籍のある国の言葉）、つまり日本語と一致して来ました。しかし近年国際化が進み、留学先で知り合って国際結婚し海外で生活する人も増えて来ました。そして、母親の母国語を継承していくことに、大変苦勞をしている方がいる現状を見聞きするようになりました。

私は昨年(注1)娘の出産の手伝いのために3ヶ月韓国に滞在しました。その間に多くの日韓カップルの方と知り合いになりました。中には友人との会話が少ないために言葉やイントネーションが少しおかしいと思う方もおられ、海外で生活することの大変さを感じました。

何か役に立つことはないかと考えて、日本に帰国後、日本語教員の資格を取得しました。そして今年2月(注2)からブندانで、週に1度、幼稚園教諭と小学校教諭の資格を活かしながら、日本人の母親のコミュニティ作りと子ども達への日本語教室をボランティアで

「2022年度 入学式・始業式」



2022年3月5日撮影

始めました。1、2才の子ども達にリトミックを教えてください方にも助けられました。絵本の読み聞かせや教材を使って物の名前を覚えたりみんなで声に出して言うなど、できるだけ語彙を増やす事や文字に触れる機会を作ってきました。また、お母さん達の協力のもと子ども達が楽しく集まれることも心がけて来ました。継承語教育には決まったカリキュラムがあるわけではないので、苦勞はありますがこれからも力を合わせていきたいと思っています。

「ことば」は遺伝するものではありません。日本語を話す人を親に持つと日本語が話せるようになるのではないのです。自分一人で家庭の中だけで、ということは大変難しいので、聞く機会、使う機会を作っていけると良いと思います。韓国のよいところも日本のよいところも知って、韓国語も日本語も話せる子ども達を育てる環境を周りにいる私たち大人が作っていこうと奮闘しています。どうぞこれからも協力をお願いします。

(注1)2014年執筆のため、2013年の意。(注2)同じく、2014年の意。

数字で見る日本語補習授業校

～保護者会(4月18日)アンケート結果より～

補習校に関わる主な保護者の在韓年数

在韓年数	人数
～1年未満	0
1～3年未満	3
3～5年未満	2
5～10年未満	5
10～20年未満	27
20～30年未満	2
30年以上	1
計	40

今後も数字から補習校を俯瞰してみたいと思います。
関心のあるテーマがありましたら、お知らせください。

補習校に関わる 主な保護者の出身地方



✉ 新入生保護者の声

小学2年、年長 保護者 稲子

去年12月に編入したキムジオ、キムリオの母親です。編入当初は、宿題したくないと駄々をこねる娘たちと、「とにかくやりなさい！」と勉強を無理強いする私との間でバトル(?)がよく勃発しました。

しかし大皿先生に背中を押していただき実現した、日本での体験入学が娘にとって良い経験になりました。体験入学を通して、日本語の勉強を頑張り、次の冬休みも日本の友達と遊ぶという目標ができた娘。最近では率先して…とまではいかななくても毎日、頑張っ

て宿題に取り組んでいます。毎週楽しい授業を準備し、子どもたちに向き合ってください

📖 おすすめ図書

小学4年、年長 保護者 C. U.

『はじめてであう すうがくの絵本1』(作・安野光雅)

みなさんは算数と数学の違いをご存じですか。算数は正確な答えを出すことが目的で、数学は答えを出すまでの過程が重要とされるそうです。この本はまさしく、その過程を楽しめる本です。この本では、答えが1つではない問いが沢山でてきます。間違いはありません。どうしてその答えになったか、その過程を楽しみます。誰かと一緒に読むと、「それは思いつかなかった!」、「そういう考え方もあるね!」と、考えを共有する楽しさも味わえます。

韓国では家族の月の5月、ご家族で読んでみてはいかがでしょうか。

(こひつじ文庫にも所蔵されています。ご利用ください。)

2022. 5. 18 発行